

NPO法人 あっとわん

ママのこころと笑顔の応援団



第125号

通信

あっとわんは子育て支援の団体です。親と子のエンパワメントを応援しています。 2014年4月25日発行 46,370部

アレルギーの子を持つ親の強い味方
東部子育てセンターで、

アレルギー相談

はじまりました。

3人のお子さんを育てている田中香織さんは、それぞれのお子さんに食物アレルギーなどがあります。自身の子育て経験から、いろいろな事を感じたり考えたりされているなかで、アレルギーを持つ子の親として、今のママたちに伝えたいことなど、お話をうかがいました。

その子の親はあなたしかいない



この言葉の重みは、命に関わることです。自分の子の命を守ることができるのは、やはりお母さんなのだ、田中さんはお話をうかがう中で、何度か強調されていました。アレルギーの子どもたちを取り巻く環境は、まだまだ整備されているとは言えない現状です。そんな中、「今」は「自分で自分の命を守る子を育てる」という前提が必要な状況です。しかしながら、場合によっては、お母さんだけでも家族だけでも難しい場合も多くあります。

だからこそ、地域や社会に向けて、食物アレルギーの知識をもっともって知ってもらいたい、いろいろなアレルギーのこと、それは命に係わることもあるのだという知識をもっと高めてもらえると嬉しいなあ和田中さんはおっしゃいました。

田中さんには、ご経験からお母さんとしての立場で、さまざまなお相談にのっていただくことになりました。基本第二金曜日と第三月曜日になります。都合により変更になる場合もありますので、毎月のカレンダーで日程をご確認ください。

ひとりじゃないよ

子どもが生まれ、食物アレルギーのあることがわかり、その子が成長していく中で子育てにまつわる「人との関わり」での経験が、今となつては貴重な経験になっているのです。そして、同じような境遇のお母さんたちに、「ひとりじゃないよ！」を伝えていきたい」と自分の経験と重ね合わせて感じているのです。

子育ての中で人間関係が大きく関わる部分に「子どものアレルギー」があると、いろんなところで「気を遣う」場面がでできます。

子どもの成長に伴い、生活に密着している「食事」のことでは、「一緒にご飯を食べに行く時のこと」「おやつのこと」「給食のこと」「遊びに行く場所のこと」……。

こういう時の状況を理解してもらうことが、結構難しいなあという感じでした。なかなか言えなかつたり、理解してもらえたとしてもアレルギーつ子にあわせてもらう「負い目」があったりして辛い思いをしているママたちも少なくありません。

そんな時、「ひとりじゃないよ」と思える時間になったのが、アレルギーの会での集まりでした。

同じ境遇の人のおしゃべりや、アレルギーの子を持つ親として欲しかった情報が、そこにはたくさんありました。また、ちょっと先輩ママの体験談も安心できるお話がたくさんありました。

安心を伝えていきたい

田中さんにとって、アレルギーの会に出席することで得た情報や経験者のお話は、先の見えない不安に対する安心に繋がったのです。

食事だけとってみても、お金も時間も何倍もかかってしまう現実があります。

食事以外でも、いろんな手間もお金もかかるのです。

田中さんは、「私の経験が、アレルギーの子を持つ親御さんにとって、少しでも希望につながる話やヒントとして、お伝えできればと思っています。」

どうしてもわからない時、先が見える安心感がとても大切になってきます。ほんの少しのきっかけで、安心感を持てることが実現できるようなと思うのです。閉塞感だけでなく、少しお話ししてみませんか？」と心強い言葉がありました。

田中香織さんプロフィール



生まれも育ちも春日井市(中学から就職まで名古屋通学勤だったものの出産を機にどっぷり春日井に埋もれる)3人(小3・年長・年少)の宝物に恵まれるも、0歳児から食物アレルギーを発症。乳・小麦・豆野菜や農薬など個々にアレルギー物質が違い、喘息・アトピー・花粉症も有り。最新医療～PM2.5に至るまで、日々、アレルギーに関する勉強をしながら子育て奮闘中。わが子それぞれのアレルギー対応のパン・料理・製菓作り、学校給食のコピー食作りに励む。

アレルギー大学(食物アレルギーを体系的に学ぶ講座) 初級・中級修了 春日井アレルギーの会 代表(平成23～25年度)時に行政や認定NPO法人 アレルギー支援ネットワーク等々と関わる

あっとわん春秋

新学期が始まり3週間が過ぎました。改めて、入学・入園・進級されたみなさま、おめでとうございませう。小学校1年生は給食もはじまりましたね。少しは落ち着いてきたころでしょうか。毎年この時期は新しい環境になり、慣れるのに時間のかかるお子さん多いのではないでしょうか。反対に、本人にとって居心地の良い環境であれば、思いのほかスムーズで楽しい生活を送っていると思います。▼学校は主に勉強を学ぶところですが、同じように社会性やコミュニケーションを学ぶところでもあります。自分の思い通りにいかない理不尽さや人との付き合いの様々な経験をしていく大切な時間とも言えます。親ができることは、その状況をできる限り客観的に見つつも、自分の子どものありのままの姿を受け入れていくことだと思えます。子どもと自分の姿を同一視してしまいがちですが、子どもの存在を尊重して考えや状況を聞いてみることも大切です。▼なかなか難しいところですが、ひとりの人間として、子どもに意見を聞いたりどうして?と聞くことを聞き、受け止める。そして、アドバイスする……。子どもが年中くらいからは、親の意識を少なうに持っていく場面を増やしていけるといいように感じています。

かわのゆみこ